

JACET-Kansai Newsletter

No. 35 October 26, 2006

Chapter President: 木村博是 (Hiroshi Kimura, Kinki University)

JACET-Kansai Office: 〒522-8533 彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学 小栗裕子研究室

(Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture, 2500 Hassaka-cho, Hikone-city 522-8533)

Tel: 0749-28-8252 Fax: 0749-28-8619 E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Postal Account : 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

より Authentic に！

支部長 木村博是

「授業力」に焦点を当てた第 45 回 JACET 全国大会が、9 月 8 日～10 日の 3 日間、関西外国語大学中宮キャンパスで開催されました。大会参加者は 800 名を越え、成功裡に終了しました。大会開催に粉骨砕身ご尽力くださいました岡田伸夫大会委員長、豊田昌倫大会実行委員長、関西支部の大会実行委員の先生方、そして、すばらしい会場を提供して頂いた関西外国語大学の関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、最近ほとんどの大学がセメスター制を採用しています。かつての通年制よりも留学するのに都合がいいとか、前期と後期で内容の違う科目や授業を受けられるというメリットがあります。しかしその反面、短期間で授業を完結しなければならず、教材の選定や授業運営に苦慮されている先生も多いのではないかと思います。

通年制の授業の方が、より長いスパンで授業を捉え、夏休みにも後期につなげる課題を出したり、教科書を最後まで終わることができるため、効率の良い授業運営ができる、と考える先生もおられるでしょう。実際、市販の教材は、まだほとんどが通年を視野に入れて作成されています。では、セメスター制で短期間に効果を上げるには、どのような教材を使用すればよいでしょうか。

ロンドンの語学学校では、Business English や IELTS などの長期滞在者向けのコースでは系統だった textbook が使用されます。しかし短期滞在者向けの General English Course では、authentic material が授業によく使われます。短期間、時には 1、2 週間単位で学生が入れ替わるため、系統だった教材を使うよりも経済的な負担が少なく、また学習効果が上がるからです。Authentic material とは、新聞記事、テレビニュース、映画、歌、時刻表などで、出版社が教材として作成した textbook ではない教材のことです。英語圏の人々が実際に (authentic) 使用しているものであることから、authentic material と呼ばれています。授業でよく使用されるのは、地下鉄の駅で無料配布されている Metro という新聞のトップ記事です。他には、BBC のテレビニ

ュース、イギリス国内の鉄道の時刻表、Tate Gallery of Modern Art などロンドン市内にある美術館のパンフレット、絵ハガキ、歌などが使用されます。

授業で authentic material を使用している先生もおられると思いますが、どのように活用されているのでしょうか。イギリスでは、リスニング教材として歌を使用するとき、歌詞の穴埋めだけでなく、発音が難しい単語を教員がホワイトボードに書いて学生に発音させ、続いて教員と学生が CD にあわせて一緒に歌います。歌うことで発音のトレーニングをするのです。新聞記事はリーディング教材として使用し、語句の意味やパッセージの内容を読み取ったあと、その記事についてディスカッションをします。たとえば記事が誘拐などの刑事事件に関するものであれば、似たような事件が自分の国で起こらなかったか、自分が被害者の家族であればどんな気持ちになるのか、といったことについて自分の意見を述べる授業です。

また、学生がテレビ局のキャスターであると想定して、新聞で取り上げられた記事をテレビニュースとして脚色し、教室で報道したりします。鉄道の時刻表は、行き先や発車時刻、到着時刻を読み取るだけでなく、それを使って作成した国内旅行のモデルルートをプレゼンテーションしたりします。絵ハガキは、その写真やイラストがどういう理由で好きなのか、どの絵ハガキを誰に出したいのか、どの絵ハガキを誰からもらうとどんな気持ちになるのか、などをディスカッションします。このような授業内容は、実際の生活、文化、習慣に根ざしたもので authentic と言えます。

私たちの身のまわりでも Web を利用したり、廉価な authentic material は容易に手に入ります。教室を学びの感動の場にするには、more authentic (より実際の) というコンセプトを基本にして、authentic material を授業のスパイスとして活用することを視野に入れてはどうでしょうか。

大学全入時代に入り、学力低下と学生の多様化が進行するなか、授業の予習すらしてこない学生もいます。そのような学生の心を読み取りながら、適切な教材を選び、それを教えるというより、むしろ学ばせ方の上手な授業力を身につけるよう、自己研鑽する必要があるのではないのでしょうか。そうすれば授業は輝きを増すでしょう。

2007 年度春季大会

ワークショップ・研究発表・実践報告応募要領 (日本語版)

2007 年度 JACET 関西支部春季大会は、6 月 2 日(土)に関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパスにて開催されます。

ワークショップ・研究発表・実践報告を募集致します。締切は 2007 年 2 月 14 日(水)(必着)です。発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

1. 発表は英語教育および関連分野に関する未発表のものに限ります。
2. 研究発表・実践報告は、発表が 20 分、質疑応答が 10 分、合計 30 分の形式になります。
3. 応募者は、応募書類(A、B の 2 種)を、E-mail 添付、または「研究発表申込中」と朱書きした封筒にて、事務局まで送付してください。

応募書類はホームページからダウンロードできます。

A) 応募情報

- a) 発表形式: ワークショップ、研究発表、実践報告の別をご記入ください。
- b) 発表題目(日本語と英語)
- c) 発表者情報(共同発表は全員): 氏名(漢字とローマ字)、所属(日本語と英語)、連絡先住所、TEL、FAX、E-mail
- d) 発表に使用する言語
- e) 使用希望機器(無い場合は「なし」と明記)

B) 発表要旨(目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献等)

日本語の場合は 800 字(A4 用紙ワープロ打ち)程度、英語の場合は 300-400 words(A4 用紙ワープロ打ち)、無記名とする。

<重要>文字数を厳守して下さい。

4. 締切り: 2007 年 2 月 14 日(水)(必着)
5. 選考は選考委員会にておこないます。
6. 選考結果は、締切り後 1 ヶ月程度で E-mail あるいは封書にて通知します。
7. 送付先: E-mail:事務局小栗 yoguri@ice.usp.ac.jp
(郵送の場合) 〒522-8533 彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 小栗裕子研究室内
大学英語教育学会 関西支部事務局
受取り確認を、一両日中に E-mail または葉書にてお知らせします。万一、連絡がない場合はご一報ください。
8. その他: ワークショップの詳細については、事務局までお問合せください。

CALL FOR PAPERS (English Version)

The 2007 Spring Conference of the JACET Kansai Chapter will be held at Kwansai Gakuin University Nishinomiya-Uegahara Campus on Saturday June 2. Members of the JACET Kansai Chapter are invited to present proposals for research papers, reports on classroom activities and workshops. Conditions and procedure for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) A research paper or a report on classroom activities should consist of a 20-minute presentation and a 10-minute Q & A period. With regard to workshops, please contact the JACET Kansai office for details.
- 3) The following proposal forms A and B should be prepared on separate sheets and submitted to the JACET Kansai office either by E-mail (attached documents) or by post (with 'proposal form enclosed' indicated on the envelope in red). These forms for proposals are available from the Web site.

A) Application form:

- a) Type of proposal (research paper, report on classroom activities or workshop); b) Title of proposal; c) Information about applicant: name, affiliation, postal address, phone number, facsimile number, e-mail address; d) Language for presentation (English or Japanese); e) Equipment required. With regard to c), if this is a group proposal, please indicate all members.

B) Abstract: anonymous; **adhere to 300-400 words.** (Some mention should be made of the purpose of the research; background; methods; conclusion; references.)

- 4) Proposals must arrive at the JACET Kansai office by no later than February 14, 2007.
- 5) Selection of the proposals will be carried out by the Reviewing Committee.
- 6) Notification of acceptance will be sent from the office within a month after the deadline.
- 7) Contact address: (E-mail) yoguri@ice.usp.ac.jp
(Postal Address) JACET-Kansai Office: Yuko Oguri, University of Shiga Prefecture, 2500, Hassaka-cho, Hikone City 〒522-8533
- 8) Acknowledgment of the receipt of your proposal will be sent by E-mail or post within two days after its receipt. If you do not receive an acknowledgment, please inform the office as soon as possible. E-mail submission of proposals is preferred.

研究企画委員長より挨拶

2006年度よりJACET関西支部研究企画委員長を仰せつかりました林桂子でございます。どうぞよろしく御願ひ致します。

大学生の英語力低下が叫ばれる一方で、小学校英語教育の必修化の問題については、伊吹文明新文部科学大臣のもと、国語力の育成との関係、中学校、高等学校、および大学へ至るまでの英語教育の円滑な連携という側面において、さらなる論議を呼ぶこととなりそうです。来春の支部大会は、関西学院大学で6月2日(土)に開催されます。JACET関西支部会員ならびに新会員の一人でも多くの方にご発表・ご参加頂きまして、関西支部の英語教育が益々発展いたしますようお祈りいたしております。前ページの応募要領ならびにHPをごらんいただきまして、ご発表の申し込みを頂きませう、お待ちいたしております。

JACET共催講演会

日時：11月7日(火) 13:00 -14:20

場所：関西外国語大学(中宮キャンパス)遠隔授業教室(図書館学術情報センター2階)

講師：Anne O'Keefe(アイルランド・リメリック大学教授)

演題：What is Fluency in English? Teaching Frequent Words and Chunks.

要旨：This lecture looks at some key questions in classroom approaches to spoken English with a particular focus on the development of conversational skills in different contexts and on how using the most frequent words in the language can enable greater fluency.

参加費：無料(事前予約要)

問合せ：関西外国語大学国際文化研究所

(Tel.072-805-2801(代) E-mail: iri@kansaigaidai.ac.jp)

JACET共催第39回

近畿中・高・大英語教育連絡協議会

日時：11月22日(水)

場所：神戸市外国語大学 大ホール他

内容：<講演>玉井健教授(神戸市外国語大学)
「リスニング指導の考え方-シャドーイングから学べること」

<公開授業>田中昭充教諭(神戸市立本庄中学校) 岩見理華教諭/ 秋宗英生教諭/ 下野厚子教諭/ 森本ルミ子教諭/ Izak van der Merwe/ Raukura Chadwick(県立芦屋国際中等教育学校) 野村和宏教授(神戸市外国語大学)

<公開授業をめぐっての研究協議>

参加費：2,500円(資料代、紀要印刷・発送費を含む)

問合せ：事務局 県立西宮南高等学校 篠原みゆき

E-mail: chukodai2006@gmail.com Fax:0798-45-2056

* 第2回談話会のお知らせ *

日時：12月9日(土) 15:30 -17:00

場所：大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス
(大阪駅前第3ビル19階)

講師：Terry O'Brien氏(大阪大谷大学教授)

演題：For your eyes only - Looking at the changes in our cultures -

談話会終了後、同ビル32階の“Cucina di Italia”にて忘年会を予定しています。談話会の詳細及び忘年会のお申し込みにつきましては、同封の「談話会開催のお知らせ」をご参照ください。

『JACET関西紀要』

投稿期限は2007年1月5日(金)必着です。

送付先：〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学文学部 英語学講座

菅山謙正研究室内JACET関西支部紀要委員会宛

問い合わせは、E-mail: ken [AT] kpu.ac.jp

またはFax: 075-703-5243

なお、『JACET関西紀要』の書式テンプレートは、<http://www.jacet-kansai.org/kiyou.html>をご覧ください。投稿規定及び執筆要項は、前号のニューズレター34号またはJACET関西HPをご参照ください。

7月1日開催の第2回運営委員会において、現行の紀要隔年発行から年1回発行にむけての審議が行われました。その結果をうけて、現在その方向で投稿規定等について検討中です。会員の皆様には、検討の段階ではありますが、ここにお知らせいたします。なお、正式の決定は来年6月の総会時になります。

* 講演会のお知らせ *

先の全国大会で基調講演をしていただいた西村和雄先生に、再度関西支部でのご講演をお願いいたしました。大会では時間の関係であまり伺えなかった英語教育に関する内容に焦点を当てて、お話いただく予定です。

日時：2007年3月4日(日) 15:30-17:00

場所：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

講師：西村和雄氏(京都大学)

概要等の詳細につきましては、次号ニューズレターにてお知らせいたします。

JACET名簿の変更手続き方法のご案内

既に本部『JACET通信』152号に名簿作成に関するお願いが記載されましたが、会員名簿上で記載の変更がある場合は、下記の大学生協学会支援センターへ直接お届けください。

E-mail: jacet@univcoop.or.jp

Fax: 03-5307-1196

事務局よりお礼

第45回全国大会は、9月8日から3日間関西外国語大学中宮キャンパスで開催されました。それに先立ちニューズレターにて実行委員を募り、20名近いボランティアによる実行委員会を結成することができました。委員の皆様には、暑い最中数回の打ち合わせや会場準備、本部との連絡に多大な時間を費やし、今大会開催のためにご尽力をいただきました。以下の実行委員の皆様は心より御礼申し上げます。

相川真佐夫氏 江平英一氏 藤林富郎氏
藤倉なおこ氏 日木くるみ氏 平井愛氏
神野雅代氏 窪田光男氏 松宮新吾氏
三宅弘晃氏 村上裕美氏 笹井悦子氏
氏木道人氏 高木美他子氏 高木佐知子氏
田村朋子氏 東郷多津氏 山崎のぞみ氏

また、会場校の豊田昌倫先生、江平英一先生、事務局の村上裕美先生、松宮新吾先生には大会中も特別にお世話になりました。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

大会実行委員の皆様から「大会を振り返って」のコメントをいただきました。その一部を紹介いたします。

「大会に関係したすべての方がお互いを思い合い、讃え合う心を忘れず臨めたことが全体的なまとまりを生んだと思います。」

「大会運営を通して、人のつながりの暖かさを改めて知る機会となり、貴重な経験となりました。このつながりをいつまでも大切にしたいと願っています。また、今後大会に参加させていただくときは、運営に関わっておられる方々のご苦勞に思いを馳せたいと考えております。」

「準備の会議での委員の皆様の熱心さと和やかさが大変印象的で、それが、大会全体の和やかな雰囲気へと繋がったと感じております。」

「大会までの1ヶ月間は準備に向けての情報が完全に得られない中で、様々な問題点を予測しながら準備をしました。当日も細かい問題に対処しながら走り回りましたが、他校の先生方と共に汗を流し大会を成功に導いた喜びと、学会運営の方の常日頃のご苦勞が体験できたことが何よりよかったことです。」

「アテンドを担当しましたが、海外からの招待講演者の先生方は、大会運営に対して理解が深く、親切で協力的でした。」

皆様、本当にお疲れ様でした。